

## 第2章 スポーツをめぐる主な状況等

### 1 社会状況の変化

#### (1) スポーツの価値の再確認

新型コロナが5類感染症に移行し、スポーツ活動が活発に行われるようになったことにより、スポーツが私たちの生活や社会に与える重要な価値（例：健康の保持及び増進やストレス解消、交流促進など）が再確認されました。

#### (2) 人口減少と少子化・高齢化の進行

特に地方において人口減少や少子化・高齢化が進み、スポーツに参画する者や担い手が不足するなど、スポーツ環境の維持がますます困難になると見込まれています。

一方で、高齢化が急速に進行し、「人生100年時代」を迎える中、年齢を問わず生き生きと活躍できるよう、若い頃からライフステージに応じた健康づくりに取り組み、健康を保持及び増進し、健康寿命を延伸することが重要になっています。

#### (3) ライフスタイルや価値観の変化・多様化

働き方改革の推進やデジタル技術の発展等によるライフスタイルや価値観の変化により、「物の豊かさ」よりも「心の豊かさやゆとりある生活」を重視する人が増加するなど、人々の求める豊かさが多様化しています。

また、近年、身体的・精神的・社会的に幸福な状態を表す概念として「ウェルビーイング」という価値観が注目されており、スポーツがその実現に向けた手段の一つとして期待されています。

#### (4) デジタル技術の発展と活用

これまでにないスピードで、AI やビッグデータ、IoT、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）などの技術革新が進んでおり、これらの活用により、「する」「みる」「ささえる」それぞれの場面における新たなスポーツの発展が期待されています。

#### (5) SDGs の推進、多様性の尊重

持続可能な社会を目指し様々な分野で取組みが進められている中、スポーツにおいても、健康やジェンダー平等などのSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組みの推進や多様性の尊重が求められています。

## 2 政府等の動向

### (1) スポーツ庁の発足

スポーツ基本法の制定や東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催等を背景とし、スポーツに関連する施策を総合的に推進するため、平成 27 年 10 月にスポーツ庁が創設されました。

### (2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催

新型コロナの世界的な感染拡大により、史上初めて開催が 1 年延期されたものの、オリンピックが令和 3 年 7 月 23 日から 8 月 8 日まで、パラリンピックが同年 8 月 24 日から 9 月 5 日までの日程で開催されました。

メダル獲得数は、オリンピックが金メダル 27 個を含む過去最高となる計 58 個、パラリンピックが金メダル 13 個を含む過去 2 番目となる計 51 個となりました。

また、57 年ぶりとなる日本での夏季大会として、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を 3 つの基本コンセプトとし、大会スタッフやボランティアなど多くの国民が参加しました。

### (3) 第 3 期スポーツ基本計画の策定

第 2 期スポーツ基本計画期間中の出来事や社会状況の変化などを踏まえ、令和 4 年 3 月に第 3 期スポーツ基本計画が策定され、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間のスポーツ政策の目指すべき方向性等が示されました。



出典：スポーツ庁 HP

## 3 本県の動き

### (1) 山形県スポーツコミッションの設立

国内外からのスポーツ大会、合宿等の誘致や受入支援、スポーツ施設・観光資源等に関する情報発信を行うとともに、スポーツツーリズムなどスポーツを核にした交流による地域活性化を図ること等を目的として、平成 30 年 10 月に山形県スポーツコミッションが設立されました。

### (2) 山形県スポーツ推進条例の制定

スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、スポーツを通じて健康で豊かな県民生活と活力ある地域社会を実現することを目指し、平成 31 年 3 月に山形県スポーツ推進条例を制定しました。

### (3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに係る取組み

令和3年6月6日及び7日に、県内18市町を繋いで東京2020聖火リレーを行い、ゴール地点では聖火の到着を祝うセレブレーションを実施しました。また、同年8月12日から16日に実施したパラリンピック聖火フェスティバルでは、各市町村で伝統や文化、産業をPRする独自の手法で採火を実施するなどの取組みを行いました。

また、県と14市町が計15か国・地域のホストタウンに登録され、一部の自治体では現在でも相手国との交流が続いています。



上：本県における聖火リレー

右：ホストタウンとの交流（写真提供：村山市）



### (4) 「やまがた雪未来国スポ」の開催

第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会「やまがた雪未来国スポ」を令和6年2月に本県で開催し、20年ぶりに本県がスキー競技で天皇杯順位第4位となりました（スケート・アイスホッケー競技も含めた冬季大会全体の天皇杯順位は第3位）。

本大会は、記録的な暖冬の影響で深刻な雪不足となりましたが、アルペン競技では、大会関係者をはじめ多くの方から、コース整備等において献身的な尽力をいただいたことにより、大会を開催することができました。



「やまがた雪未来国スポ」（写真撮影：山形新聞社）

## (5) 部活動改革の推進

「生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」の両立に向けて、令和5年3月に「山形県における部活動改革のガイドライン」を策定し、中学校の休日の部活動を段階的に地域のクラブ活動へ展開する取組み等を進めています。

## (6) 国際大会等における本県選手の活躍や県内プロスポーツチーム等の盛り上がり

北京2022オリンピックのスピードスケート男子500メートルで銅メダルを獲得した森重航選手、2023ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)に日本代表として出場し日本の優勝に貢献した中野拓夢選手、パリ2024オリンピックのレスリング女子76キログラム級で金メダルを獲得した鏡優翔選手など、本県にゆかりのある選手のオリンピック・パラリンピックをはじめとした国際大会等での活躍は、県民に勇気と感動を与えてくれました。

また、県内に拠点を置くプロスポーツチーム等(サッカー、バスケットボール、バレーボール等)の盛り上がりは、地域の絆や誇りを育むとともに、地域の活性化に貢献しています。



中野拓夢選手（山形県スポーツ栄光賞授与時）



鏡優翔選手（山形県県民栄誉賞贈呈時）

## 本県のプロスポーツチーム等



©MONTEDIO YAMAGATA



©Passlab Inc.



©Aranmare YAMAGATA

## (7) 県の組織改編

令和6年度の組織改編において、観光や地域活性化などの視点を加えた総合的なスポーツ振興施策の推進等のため、スポーツに関する業務（学校体育を除く。）を教育局から観光文化スポーツ部に移管しました。

## 4 第1期計画の指標等の状況

山形県スポーツ推進計画<後期改定計画>においては、「生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進」「トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立」「スポーツを通じた活力ある地域社会の実現」の3つの基本方針を連動させながら各施策を展開してきました。

それぞれに応じ掲げた指標等の状況については、概ね以下のとおりです。

### 基本方針1 生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進

#### 【施策目標】

ライフステージに応じ、楽しみながら「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進とその環境整備を行う。

項目		後期改定計画 策定時	最新値	
成人のスポーツ実施率（週1回以上）	60%	35.2% (H28)	33.6% (R6)	
成人のスポーツ実施率（週3回以上）	30%	16.7% (H28)	14.6% (R6)	
総合型地域スポーツクラブが行う活動への参加者数	増加させる	21,300人 (H29)	36,711人 (R5)	
子ども（小学生）のスポーツ実施率 （1日60分以上）	60%	44.7% (H29)	39.8% (R6)	
	参 考	小学生男子	54.7% (H29)	50.4% (R6)
		小学生女子	34.4% (H29)	29.2% (R6)
スポーツや運動が「嫌い」・「やや嫌い」である 中学生を減らす	10%以下	14.7% (H29)	14.5% (R6)	

- ・ スポーツ実施率については、新型コロナの影響により一時落ち込んだものの、新型コロナの5類感染症への移行後、その低下に歯止めがかかりつつあります。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ<sup>1</sup>（以下「総合型クラブ」という。）においては、市町村からの高齢者介護予防事業等の受託等により会員以外の参加が増加しています。

<sup>1</sup> 人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。（出典：スポーツ庁 HP）

- ・ 県民が生涯にわたってその体力、年齢、適性、健康状態等に応じて身近にスポーツに親しみ、かつ、スポーツを楽しむことができるよう、引き続き、スポーツ活動を行う機会の提供や参加しやすい環境の整備等に取り組む必要があります。

## 基本方針2 トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立

### 【施策目標】

ジュニア期からトップレベルに至る体系的な人材の養成システムの構築及びスポーツ環境の整備により、国際大会や全国大会で活躍する選手を数多く育成する。

項目		後期改定計画 策定時	最新値・実績値
オリンピック・パラリンピックでのメダリスト	輩出	—	2名(R3, R6)
国体（国スポ）の天皇杯順位	全国20位台	31位（H29）	33位(R6)
インターハイ入賞数	夏季：40以上	60（H29）	40(R5)
	冬季：15以上	26（H29）	15(R5)

- ・ 北京2022冬季オリンピックにおいて、本県で活動を行っていた選手から待望のメダリストが輩出されました（スピードスケート競技男子500メートルにおいて森重航選手が銅メダルを獲得）。
- ・ 本県のスポーツ選手が国内外のスポーツ競技会等において優秀な成績を収められるよう、引き続き、各競技団体等と連携し計画的に選手や指導者を育成するなど本県の競技水準の向上を図るための施策を講じる必要があります。

## 基本方針3 スポーツを通じた活力ある地域社会の実現

### 【施策目標】

スポーツを通じた地域の活性化を目指し、地域資源、プロスポーツ及びスポーツイベント等の積極的な活用並びにアスリートの活躍の場の拡充を推進する。

項目		後期改定計画 策定時	実績値
ホストタウン交流事業への参加者数	8,000人	8,500人(H29)	10,732人(R3)

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックにおいては、新型コロナの影響を受けたものの、オンラインなど工夫を凝らして交流イベント等が開催されました。
- ・ スポーツ活動を通してさらなる地域活性化が図られるよう、引き続き、プロスポーツチーム等との連携や、スポーツによる魅力発信・イベントの開催、交流人口や関係人口の拡大に係る取組みを推進していく必要があります。